

1. 案件の概要	
業務名称	ポカラ市における妊娠期から乳児期までの切れ目のないケア推進事業
対象国・地域	ネパール国 ポカラ市
受託者名	ネパール交流市民の会
カウンターパート	Pokhara Komagane Citizen' s Association for Friendship
全体事業期間	2023年1月～2025年6月
2. 事業の背景と概要	
<p>ネパールでは妊産婦死亡率や新生児死亡率の改善が進む一方、さらなる低減には医療サービスの質の向上とともに、妊娠期から産後・乳児期に至るまでの切れ目のない継続ケアの構築が不可欠とされている。先行事業（2015年3月～2021年5月）では、コミュニティでの健康教育や、医療従事者の能力強化に焦点を当てた。これにより、妊婦健診の受診率向上や乳房ケアの開始などの成果を上げた。しかしながらケアの質には依然課題が残り、妊娠期から産後までの情報共有が分断されていることが課題であった。本事業では、母子健康手帳（以下、母子手帳）の開発と導入・活用を通じて、妊娠期から乳児期までの切れ目のない継続ケアの強化を目指し、医療サービスの質向上と母親のオーナーシップの向上に重点を置いた。また、母乳育児支援の観点から、日本の助産師により考案された「川手式乳房マッサージ（KBM）」の技術普及を2016年から取り組んできて、ガンダキ州の公的トレーニングとして導入されるほどに信頼を得た。</p> <p>日本側の行政、医療機関、教育機関に加え、地域住民や企業等、多様な関係主体の協力によって進められてきたのが本プロジェクトの特徴の1つである。地域の多様な主体が役割を持ち寄り、現地と共に学び合い成長する「地域共創型」で取り組んできた。</p>	
3. 事業評価報告	
<p>評価結果を4段階でレーティング（非常に高い、高い、やや低い、低い）する。</p> <p>(1) 妥当性 —非常に高い</p> <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの全体的な枠組みは、ネパール政府が「すべての母親と新生児の健康的な生活と福祉の確保」を目指して策定した「Nepal Safe Motherhood and Newborn Health Road Map 2030」に合致するようデザインした。特に同ガイドライン謳われている「妊娠中から産後までの継続ケア」の向上に貢献するため、母子手帳を中核ツールとして位置づけることで、各活動が有機的に連携した。 妊娠から産後の各ステージは、ケアを受ける医療機関が変わることから、母児の情報が母親本人のみならず、各施設間でも共有されることが重要である。母子手帳はその活用を通じて、母親並びに母児に関係するステークホルダーが主体的に相互に連携することを可能にした。 生後6か月までの完全母乳育児が政策的に推奨される中、医療従事者が母乳育児に必要な知識と技術を十分に提供できていない現状があり、KBMの導入と普及は、乳房関連の問題を抱える母親への効果的な支援策となった。 事業終盤に、ネパールで初とも言われる「母乳外来（Breast Care and Counseling 	

Unit: BCCU)」が母子友好病院内に設置されたことはネパール側が完全母乳育児という政策目標の履行の上で乳房ケアを重視していることの表れであり、本事業のアプローチが妥当であったことを示すものと言える。

(2) 整合性—非常に高い

(ネパール政府・ガンダキ州)

- 「Nepal Safe Motherhood and Newborn Health Road Map 2030」の継続ケア強化に関連し、州の課題である全国平均よりも高い妊産婦死亡率と新生児死亡率の削減に貢献し得るシステムとして、母子手帳の導入を州保健省、ポカラ市保健局に説明し、開発への合意を得た。
- 母子手帳開発初期から州保健省やポカラ市保健局、病院を巻き込み、オーナーシップを醸成しながら開発を進めた。既存の政府情報管理文書（ANC カード、予防接種カードなど）を統合する形で母子手帳は設計され、既存システムに沿った形となった。

(日本政府・JICA)

- 外務省のネパール国別開発協力方針では、南アジアで最も高い妊産婦死亡率の改善のために母子保健強化を掲げている。また、JICA グローバルアジェンダ「母子手帳の活用を含む質の高い母子継続ケアの強化」（母子保健クラスター戦略）に本事業は合致する。本事業実施中に検討されていた母子手帳に関する JICA 技術協力プロジェクトの開始が決定し、本事業の実施地であるガンダキ州がパイロットサイトとなった。これまで技プロの詳細計画に向けた情報共有や現地関係者との連絡調整に協力しており、日本政府や JICA 保健分野の協力の方向性と本事業との整合性は非常に高かった。

(国際機関)

- UNICEF・WHO が母乳育児支援強化を目的に推奨する BFHI（赤ちゃんにやさしい病院イニシアティブ）を推進する母子友好病院をサポートする形で、プロジェクト目標達成に向けた協働を継続。これは、母子保健における国際的な規範や基準に沿った取り組みであることを示している。

(3) 有効性—高い

未達成の指標は、主に産後ケア (PNC) に関するものであり、その要因として、PNC の実施主体であるヘルスポストの人員削減という外的要因が影響したと考えられる。しかしそのような状況下においても、事業対象地域における PNC 家庭訪問率は非対象地域と比較して高く、プロジェクトが目指した「母子手帳を介した医療従事者間及び女性地域保健ボランティアの連携強化」は、後述する家族主導型報告システム (Family-led-supporting system: FLRS) 等の取り組みを通じて一定程度実現されたと評価できる。

- 指標 1-1. 特別新生児ケアユニット (SNCU) 退院後にヘルスポストからフォローを受けた病後児の割合が 7 割になる：未達成。

目標の 70% に対し、28% に留まった。これは、調査期間中の対象児数が少なく、やむなく事業地以外からの SNCU 入院児も調査対象に含めたことが影響したと考えら

れる。特に、対象地域外では地域レベルのフォローアップ体制が不十分であることが示され、退院時の保護者への説明強化や FCHV との連携強化が課題として挙げられている。一方で、母子友好病院の SNCU 看護師による退院後の電話フォローは、90%の母親が退院後 7 日以内に連絡を受けており、全てのサービス受領者から高い評価と継続希望が寄せられた。

- 指標 1-2. 病院から要フォローでヘルスポストに連絡があった褥婦¹の 7 割がヘルスポストスタッフのフォローを受けている：未達成。

産後家庭訪問の実施率は 42%で未達成ではあるもののヘルスポストの人員不足といった困難な状況下で、事業地域外の 26%と比較して一定以上の成果があったと評価。

- 指標 1-3. 退院後の規定の PNC を完了した褥婦が 5 割になる：未達成。

PNC を 3 回全て受診した母親の割合は、事業地で母子健康手帳を保有していた母親においても 12%（コントロール群 5%）に留まり、目標の 50%には遠く及ばなかった。家庭訪問に関する知識を持つ母親は 45%であったが、実際に訪問をリクエストしたのは 23%に留まり、「知識から行動への移行」が限定的であることが明らかになった。しかし、訪問を要請した母親のうち 78%は実際に家庭訪問を受けており、FLRS の有効性が示された。

- 指標 2-1. 実践能力評価基準において、8 割達成している人が増加する：達成

本指標は、MBFHI（母と子に優しい病院イニシアティブ）の一環として行われた ANC/PNC カウンセリングの質強化を対象とし、カウンセラー能力調査によって評価した。構造化されたスキルチェックリストを用いた前後比較では、評価対象者 7 名中、評価前には 8 割以上の達成者が 0 名であったが、研修・支援後には 5 名が達成し、明確な改善が見られた。残る 2 名も大きくスキルを伸ばし基準の 7 割に達した。

- 指標 2-2. 乳房ケア (KBM) のスキルが母子友好病院において、Level 1&2 : 20 人以上、Level 3 : 6 人以上：達成。

Level 1 および 2 は 20 名、Level 3 は 8 名に達した。産科病棟に加え、SNCU や救急外来の看護師も研修を修了し、入院中の新生児の母親や夜間・休日に来院する母親への乳房ケアの機会が拡大した。産科病棟での母乳育児支援ができる看護師層の充実により、支援を受けた母親の完全母乳育児率が 70%を超える成果も得られている。指導者育成においては、7 名が Level 1 指導者として認定され、日本側の関与なしに基礎的な乳房ケア研修を提供できる体制が構築された。

- 指標 3-1. 保健指導チェックリストのテストで 70%以上取る FCHV が 7 割以上になる：達成。

150 名の FCHV のうち 124 名が受験し、97%（120 名）が 70%以上の得点を取得した。

- 指標 4-1. ポカラ市外の遠隔地において、6 回以上の母親学級およびお産を待つ家の説明会を開催する：達成

当初計画されていた「お産を待つ家」の活用は、主に政治的理由から MSMPH 運営委員会の理解が得られず実現しなかったが、対象の VDC（村落開発委員会）にて、MSMPH が提供する母子保健サービスの説明会を 6 回実施し、ヘルスポストスタッフ、母親

¹ 出産後の回復期にある女性

グループ、FCHV 代表者など合計 446 名が参加した。教育用映像教材については、既存の信頼性の高い動画資源を活用する方針に転換し、母子手帳に QR コードを掲載して母親が携帯から適切な情報にアクセスできるようにした。

- 指標 5-1. 両国の各組織や医療者同士がオンラインでつながり協議する機会が事業期間中 5 回以上：達成。

日本の協力機関とネパール側の関係機関の間で、オンライン研修や本邦研修前の情報共有会議を 40 回以上開催した。

- 指標 5-2. 両国の市民がオンラインでつながり民際交流を深める機会が事業期間中 3 回以上：達成

学校や大学でのオンライン交流会など 4 回開催。実際に表情や環境を見ながら言葉を交わし、肌感覚をもってつながることにより、事業への理解が深まった。この指標以外の部分でも幅広い取り組みを行っており(7)市民参加の観点に詳述している。

(4) インパクト ー非常に高い

短期的・直接的な成果に加え、間接的・長期的な多岐にわたるインパクトを生み出した。

- FLRS が、母親自身が主体的にケアに関わる意識を高め、家族によるサポートの重要性を強調した。FCHV もこれまで把握困難であった移住者の母親からも家庭訪問の依頼が来るようになったと評価している。
- 乳房ケアを受けた母親からは「母乳で育てられる喜び」や「不安の軽減」といった肯定的な反応が多数報告されている。妊婦健診時のカウンセリング満足度は 97%、産後退院前では 90%と高水準で、サービス提供が母親の信頼と満足につながっている。
- 家族の意識変化にも明確なインパクトを及ぼした。調査からは 50%の女性が手帳の保健指導内容を家族に伝えており、うち 86% が夫に共有。その結果「家族が、私（母親）と赤ちゃんの健康を気に掛けるようになった」「子どもの成長や健康管理について家族の理解が深まった」と回答している。
- 乳房ケア外来のスタッフからは「母親たちの笑顔を見ると、自分の仕事が本当に役に立っていると感じる」との声が聞かれ、日々の業務に対する誇りとやりがいの醸成が確認された。また、母子手帳の導入によりカウンセリング内容の標準化が進み、看護師からは「伝え忘れがなくなり、自信を持って指導できるようになった」との報告があり、専門職としての自覚と実践力の向上が認められた。

(5) 効率性 ー高い

限られた資源の下で複数の活動を効率的に展開した。

- 日本とネパールのチームの密接な連携や協力者の支援により、多数の対象者に対する能力強化を効率的に実施した。例えば、日本側の看護大学や助産施設、駒ヶ根市などの保健医療従事者を講師陣に迎え、その専門知識をオンライン研修、現地での研修、本邦研修などを通じ伝達した。
- 日常的に、ネパールと日本間でオンライン会議システムを活用し、適時に頻繁な協議を行い、地理的な制約を克服した。さらに、クラウドストレージサービスや AI 生成ツールを活用し、事業関連のデータやドキュメントを常に共有しながら作業を進

めたことは、事務効率の向上に貢献した。

- ・ オンライン研修は、オンライン会議システムで繋ぎ、USB カメラと PC の複数使いなどで実践的な手技を映像で確認できる環境を構築した。
- ・ 円安の影響で現地通貨換算額が減少し、環境整備や活動実施の効率性に負の影響を及ぼした。対応として支出削減に努め日本での寄付・寄贈の呼びかけや謝金交渉を実施。研修受入の意義を高める工夫により、先方の充実感や満足度も確保に努めた。

(6) 持続性 ー高い

- ・ ポカラ市保健課は母子手帳の公式利用を承認し、印刷・運営費を市予算に組み込む計画を進めており、地域行政レベルで普及が進む見通しが立っている。さらに、本事業で蓄積された母子手帳に関する知見は、連邦政府と JICA による新たな技術協力プロジェクトに活用されることが想定されており、その実施サイトのひとつとしてガンダキ州が選ばれたことから、本事業の成果がガンダキ州及び全国的に普及する可能性も高まっている。
- ・ ガンダキ州保健省が乳房ケアトレーニングを公的な医療者研修プログラムに正式に組み込み、今後 3 年間で州内 11 病院に母乳外来を設置し、研修を通じて実践を広げるために、250 万ルピー×3 年の予算を確保したという発言が保健省トレーニングセンター長の Dr. Binod Bindu Sharma 氏から、複数の打合せの場であった。州レベルの政策への統合と制度化の動きとして特筆すべきである。
- ・ 母子友好病院に母乳外来が設置され、母乳育児に悩む母親が継続的に支援を受けられる体制が整備されたことは、医療機関の信頼性向上にも寄与している。
- ・ フェーズ 1 から一貫して、プロジェクトマネージャーや母子保健専門家らが現地関係者の継続的なエンパワメントを行い、現地の人々もそれに応え、主体的に活動しようとする意識を高めてきた。また、医療現場の実情に即した柔軟な支援、行政などへの丁寧な働きかけが基盤となり、事業終了後も現地関係者による実践と制度化が進む見込みである。

(7) 市民参加の観点 ー非常に高い

多岐にわたる形態で、日本とネパールの市民が協力しあう「民際活動」を展開し、地域にいる人材が年齢や語学力に関係なく参画し、現地と共に成長しあうことを目指してきた。

① 市民団体・個人の主体的関与

- ・ 高齢者（乳房モデル製作）、高校生（新生児病棟の暖簾制作・動画制作）、大学生（現地ボランティア）、市民（募金によるキッズコーナー整備など）
- ・ 国際ソロプチミスト伊那（乳房ケア外来の家具・機材を寄贈）

→「国際協力と構えずに、近所の人々と関わる感覚で交流することを楽しんだ」との声が聞かれ、物資支援にとどまらず、ネパール側との温かな交流の象徴となった

② 企業の技術・物資支援

- ・ セイコーエプソン豊科事業所（プロジェクター無償貸与）
- ・ ミコマ技研（母子保健用の立体 QR コード提供）
- ・ 福沢製作所（小児科病室改装支援、記念プレート製作）

- ・ 菜の花マタニティクリニック（新生児モデル等の寄贈、オンライン研修支援）
 - ・ 中畑内科消化器科クリニック（ネパール職員の日本研修費用を支援）
- 現地での視覚教材や研修資材の充実につながり、保健教育の理解度と実践力が向上
- ③ 医療・教育機関の協力
- ・ 長野県看護大学、幸助産院、菜の花マタニティクリニック、おひさま助産院（研修・実技指導・教材開発等）
 - ・ 川手幸子助産師（KBM 技術指導）
- 現地スタッフの専門性が高まり、ケアの標準化と質の維持に大きく寄与。「自分の知識と技術が世界につながっていると感じられてうれしい」という声がたびたび寄せられた。
- ④ 行政機関との連携
- ・ 駒ヶ根市（友好都市関係を基盤とした支援、「駒ヶ根フォーラム」の共催）
- 自治体との連携により、事業の公的信頼性と継続性が高まり、他地域への展開可能性も広がった。

(8) 今後に活かすためのグッドプラクティス・教訓・提言等

① グッドプラクティス

(ア) 実践に結びつく研修の実施

ネパールの看護教育は理論偏向で実践との乖離が課題であったため、研修で理論のみに偏らず現場での実践を意識した構成とし、参加者の体験共有や医療モデルを用いた実習を取り入れた。母子手帳研修では病院とヘルスポストの混合で実施し、現場での連携強化を促進。ロールプレイによって新たな業務のイメージ化を支援し、研修後も病棟での実地フォローを継続し、定着を図った。

(イ) 現地スタッフおよび関係機関のオーナーシップ促進

日本側から現地スタッフへの講師業務の技術移転を進め、自立してトレーニングを実施できる体制を整えた。また乳房ケア研修にはレベル制を導入し、参加者が段階的に技術を習得しながら継続的にスキルを向上させる環境づくりを進めた。

② 教訓と提言

- ・ 母子手帳配布時の説明が不十分で一部の母親は十分に活用できないことがあった。母子手帳は産前・出産・産後、妊産婦・看護師・医師・FCHV を繋ぐシステムの一部であり、配布するだけでは機能しないことを関係者間で周知する必要がある。看護師の異動や新規赴任があっても、母子手帳の運用が継続されるよう、視覚教材や簡易マニュアルの整備、研修機会の確保が求められる。
- ・ 当事業の特徴の一つが「民際活動」であり、当会のキャッチフレーズには「海を越えたご近所付き合い」や「こたつからできる国際協力」というものがある。「支援する・される」という関係ではなく、お互いに支え合いながら、共により良い社会を築いていくことを目指してきた。産・官・学・民の分野を越えて、より多くの人がつながり関わることで、より大きな幸福を生み出してきた。当事業の役割は、保健指標の向上だけでなく、この「関わりを創造する」ことにあったとも言える。こうした取り組み方を、それぞれの地域にいるすべての人を「共創のためのパートナー」と位置づけた「地域共創型国際協力モデル」として提言したい。

※A4 サイズ 5 枚を目途に簡潔にまとめてください。

終了時評価からのコメント



海を越えたご近所づきあい
民際活動



研修・教材作成・研究への協力 Phase3

- 駒ヶ根市役所
- 長野県看護大学
- 諏訪赤十字病院
- 菜の花マタニティクリニック
- おひさま助産院
- 幸助産院



手作り祝い品のプレゼント



- 個人（日本各地から）
- あつい！こまがね
- フラワーハイツ
- 石楠花苑
- 町3区いきいきサロン
- マヤの会
- 南割区1-1常会いきいきサロン
- 昭和伊南総合病院
- 竜群（かめむら）
- 森庵（もりあん）
- 伊那谷スタイル
- まちの縁側
- とうふや（伊那市）
- 村岡にっこり会
- 辰野町ボランティアセンター



乳房ケアトレーニングに必要な
おっぱいモデルの製作



赤穂小学校6年生：
出前講座→民際交流会でインタビュー→絵を寄贈→
オンライン交流会



伊那北高校：
探求学習でプロモーションビデオ制作



赤穂高校：
新生児治療室の のれん製作



塩澤彩志さん
ボランティア活動: 動画撮影、写真撮影



風蓮色PJ:
キッズコーナーのグレードアップ



国際ソロプチミスト伊那 様:
乳房ケア外来開設 備品・家具など



- キャビネット
- Baby bed
- 新生児用体重計
- 体重計用テーブル
- 湯沸し器
- 洗面器
- タオル
- 壁塗装
- カーテン
- 足置き
- 踏み台
- 母用椅子
- マットレス

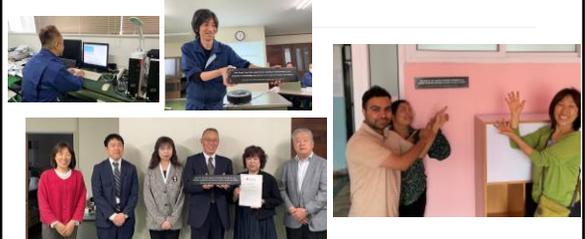
国際ソロプチミスト伊那 様



福沢製作所様:
小児科を子どもたちが来たくするような場所にアップグレード



福沢製作所様:
国際ソロプチミスト伊那様の寄贈記念プレート制作



菜の花マタニティクリニック様：
研修用医療モデル寄贈



セイコーエプソン(株)豊科事業所 様：
プロジェクター・周辺機器 無償貸与



駒ヶ根協力隊を育てる会 様
母子手帳印刷 1200部



ミコマ技研(株) 様：
立体QRコード

妊娠出産・子育てのための動画
にリンクし、必要な情報にアクセ
スしやすくする



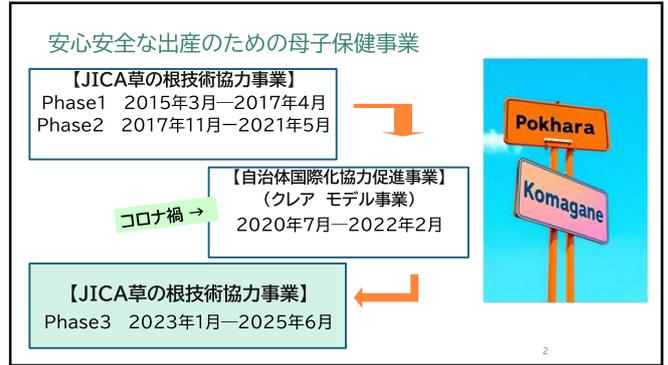
中畑内科消化器科クリニック 様：
乳房ケアトレーニングのために日本人専門家派遣、ネパール人スタッフ
日本招聘渡航費







1



2

フェーズ3・活動の2本柱

1. 母子健康手帳の開発・導入

背景

- ・不十分な保健指導
- ・母親・家族の妊娠・出産・産後に関する知識不足
- ・緊急時に情報不足による適切なケアできない
- ・低い産後家庭訪問率（ヘルスボストに退院した母児の情報繋がらない）

↓

高い妊産婦・乳児死亡率が課題

2. 母乳育児のための乳房ケア

背景

- ・少子化・コミュニティの変化
- ・母乳の与え方分からない

↓

- ・乳房トラブルを解決できる場所がない

↓

お母さん：母乳が与えられない辛さ
赤ちゃん：不衛生なミルクによる感染症（下痢で衰弱し亡くなることも）

↓

乳児死亡率・特に新生児死亡率が課題

3

◆プロジェクト目標

「母子保健に関わるアクターが繋がり、妊娠期から産後まで母児を地域で支える切れ目のない継続ケアの強化」

提案団体：駒ヶ根市
実施団体：ネパール交流市民の会

◆プロジェクト期間
2023年1月～ 2025年 6月(2年6ヵ月)

4

1. 継続ケアのツール「母子健康手帳」の開発

駒ヶ根市「子育てのしおり」を参考に、Phase 1-2で作成・配布

ネパール全国で使われている健診カード

ガンダキ州保健省・ポカラ市・母子友好病院の保健医療関係者と共に母子手帳試行版を開発

5

母子手帳(施行版)の運用開始
2024・2～

母のコメント：以前は、いつ妊婦健診を受ければよいか分かりませんでした。母子手帳のおかげで、今回は自分でタイミングが分かって病院に行けるようになりました。情報も満載でとても貴重です

6

母子手帳を活用した継続ケアのためのトレーニング

対面での研修 オンライン研修

7

2. 母乳育児のための乳房ケア

2016年～ 駒ヶ根市の川手幸子助産師による川手式乳房マッサージ(KBM)トレーニング開催

フェーズ3: 母乳育児支援のための包括的なトレーニング構築、ネパール人指導者育成

駒ヶ根で

ボカラで

オンラインで

8

一番の課題、それは… 実践と定着!

- 実践の場を設定
- モニタリング&アドバイス
- 方法を修正
- さらに実践

9

1. 母子手帳: 現場での活用支援

連日、病院の外來・病棟で、母子手帳の記入や手帳を使った保健指導が出来るようサポート

10

1・母子手帳: 産後家庭訪問へ情報を繋ぐ: 課題 退院時の母児情報に関する病院-ヘルスポスト間共有が困難 対応: Family-led reporting system② (PNCカウンセリング時) 家族にHP or FCHVへの家庭訪問要請コールの促し

11

1・2(母子手帳&乳房ケア): 産前産後ケアユニット開設

母子手帳を使った保健指導&乳房ケアを全てのお母さんへ
← 毎日実施されるよう環境整備と仕組みをサポート

トレーニング・実践・改善のサイクルへ

12

2. 母子友好病院に(ネパール初の)母乳外来を開設

- 退院後も、授乳に困ったお母さんがいつでも相談できる場
- 経験ある看護師たちが専属スタッフとして常駐



13

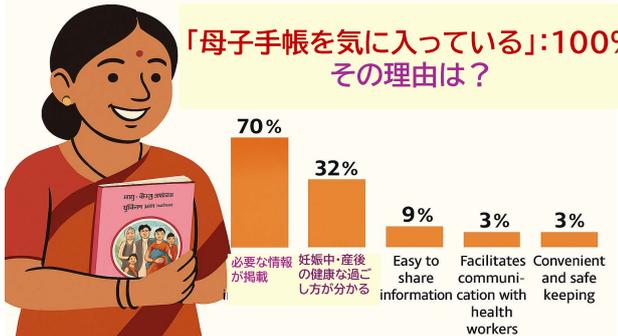
終了時調査結果

CiC Survey
Data Collection Period: March 2025 to May 2025
Data collection: Face-to-Face interview using a structured questionnaire
Sample Size
Mothers who have MCH Handbook in our catchment area (N1) = 100
Mothers who do not have MCH Handbook out of our catchment area (N2) = 100



14

「母子手帳を気に入っている」:100% その理由は?



理由	割合
必要な情報が掲載	70%
妊娠中・産後の健康な過ごし方が分かる	32%
Easy to share information with health workers	9%
Facilitates communication with health workers	3%
Convenient and safe keeping	3%

15

母子手帳にある保健指導の共有

50%の女性が手帳の保健指導内容を家族に伝えている。
うち 86% が夫に共有

結果…

- 家族が、私(母親)と赤ちゃんの健康を気に掛けるようになった
- 子どもの成長や健康管理について、家族の理解が深まった



母子手帳が家族を母子へのケアへと促す役割

16

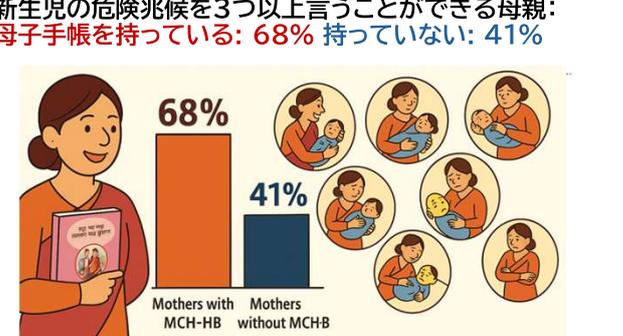
産後の危険兆候を3つ以上言うことができる母親: 母子手帳を持っている: 47% 持っていない: 22%



母子手帳の有無	3つ以上言うことができる母親の割合
持っていない (Mothers without MCH-HB)	22%
持っている (Mothers with MCH-HB)	47%

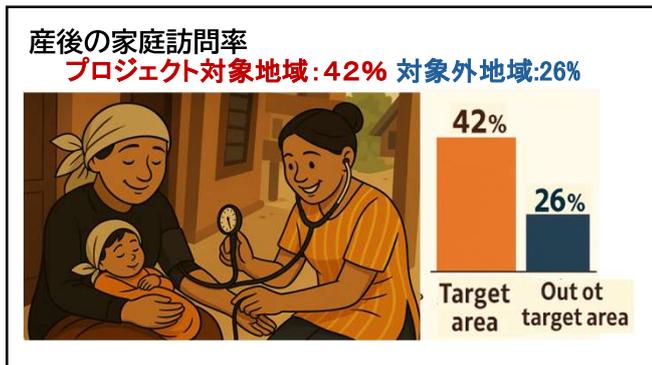
17

新生児の危険兆候を3つ以上言うことができる母親: 母子手帳を持っている: 68% 持っていない: 41%



母子手帳の有無	3つ以上言うことができる母親の割合
持っていない (Mothers without MCH-HB)	41%
持っている (Mothers with MCH-HB)	68%

18



19



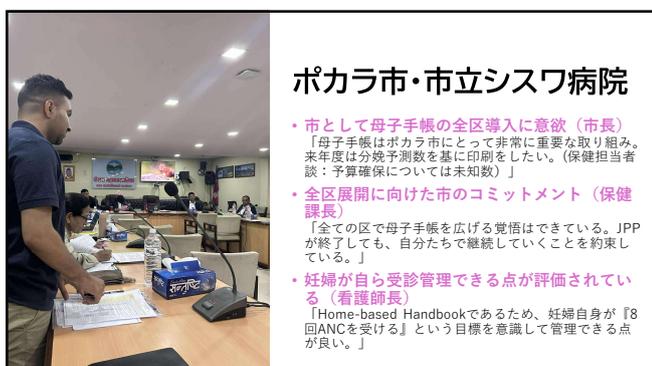
20



21



22



23



24

産科外来看護師

「妊婦の理解が進み業務が円滑に」
 「母子手帳に妊娠経過と週数ごとのケアが記載されているため、妊婦さんたちが、健診で受けるケアが分かっていて、仕事がやりやすくなった」
「未受診ケアと次回妊婦健診の日が一目瞭然に」
 「CoCカードを見れば、受けていないケアや次の妊婦健診の日が一目で分かる。お母さんたちもスケジュールどおりに来るようになり、スタンプがない箇所のケアを求めに病院に来るようになった」



25



・カウンセリングナース

「記憶に頼らず、質の高いカウンセリングが可能に」
 「母子手帳のカウンセリングチェックリストが出来てからは、自分の記憶に頼らずに、全てのカウンセリング項目が漏れなく提供できるようになった」

一終了時調査での妊産婦さんのカウンセリング満足度：
 妊婦健診時：97%、お産後の退院前カウンセリング：90%が「満足」

26

ヘルスポスト(妊婦健診・産後の家庭訪問を担当)

・FCHVが把握していない母親からも訪問依頼が届くように

「Family-led reporting systemで、FCHVも把握していない母親から家庭訪問の依頼が来るようになった。外からボカラにきた移住者の把握にもつながっている。」



カウンセリングの効率が向上

「以前はANCカウンセリングに1時間かかっていた上、相手が内容を忘れてたり、自分も伝え漏れがあった。今は妊婦さんが予め読んできてくれるので、カウンセリング時間が短縮されて楽になった。」



27

ヘルスポスト

・病院記入の分娩時記録が家庭訪問で有効

「病院でPNCチェックリストに分娩後・出生後の状況を書いてくれているので、家庭訪問時にとても便利。」

・CoCカードのスタンプが妊婦の励みに

「CoCカードのスタースタンプが好き。スタンプが埋まったお母さんは「スターになった」と喜んでいる。」



28

女性地域ボランティア (FCHV)

- ・CoCカードでサービス受診状況が一目で分かる
- ・お母さんたちの知識の差ははっきり見える
- ・FCHVの電話番号記載で移住者の把握がしやすくなった
- ・母子手帳は失くしにくく、使いやすい
- ・緊急時の情報提供に役立った



29

母親・家族

・経験のない妊娠・出産においても大きな支えに

「妊娠、お産、赤ちゃんのことが全部書いてあるのでとても勉強になった。特に栄養のページが役に立った。家にお産経験がある人がいなかったら、母子手帳の情報が本当に助けになった。」

・夫の意識にも変化が生まれた

「夫に目頭のお父さんへの手紙（胎児が見ぬ父に宛てたメッセージ）を読んでもらったら、私の体調を気にかけるようになり、逆に「これはしちやダメだよ」と教えてくれるようになった。」

・完全母乳育児への意識向上

「母子友好病院で乳房マッサージや母乳の飲ませ方も教えてもらった。母子手帳にあるように6か月までは母乳だけで育てるつもり。」



30

乳房ケア

●産後のお母さん

「上の子の時に乳腺炎で母乳育児を断念した辛い経験がありましたが、今回は乳房ケアを受けて母乳で育てられるのが本当に嬉しい」

「初めての子で、うまく母乳をあげられるかすごく心配だったけれど、看護師さんが丁寧に教えてくれたおかげで不安がなくなった」

●乳房ケア外来スタッフ

「母親たちの笑顔を見ると、自分の仕事が本当に役に立っていると感じる」



31

母子手帳の導入を歌でお祝いする女性保健ボランティア



32

JPPフェーズ3の成果

母子手帳: 国レベルのプロジェクトへ

2025年4月～JICA技術協力プロジェクト開始

ネパール中央政府保健省とJICAによる国レベルでの母子手帳開発がスタート

乳房ケア: 州レベルのプロジェクトへ

2025年4月～ガンダキ州公式トレーニング化

ガンダキ州保健省が「産後早期の乳房ケア研修」として公式トレーニングに採用
今後3年間で州内11病院へのトレーニングと母乳外来設置を予定



33

そして直面している課題ー

プロジェクト
2025・6月終了

ガンダキ州公式乳房ケアトレーニング

母子友好病院・母乳外来

- ・保健省で州内のすべての公立病院に対して、乳房ケア研修を行うための予算確保
- ・2025年6月までに2回の試行版研修開催
- ・その後、継続して実施される想定
- ・しかし、このままではプロジェクト終了後、講師をできる人材がいなくなる
- ・新しい講師を養成できるコースがない
- ・母乳外来開設
- ・業務として連日ケア実施
- ・運営方法が未知
- ・配置スタッフが足りない
- ・アドバンスレベルの施術者がいない

プロジェクト終了後の技術支援について、州側より強い要請が来ている

34

ネパールの皆さんの 笑顔のために

ご清聴ありがとうございました



35